

総務厚生常任委員会行政視察研修政策提言書

1. 「健康づくり活動でポイント付与「日本一健康なまち」」について

新潟県見附市は、ウェルネス（健幸）をこれからのまちづくり政策の中核に据え、健康に関心のある層だけが参加するこれまでの施策から脱却し、市民の誰もが参加し、生活習慣病予防及び寝たきり予防を可能とするまちづくりを目指し、平成26年3月に見附市健幸づくり推進計画を策定した。これにより、各種運動教室を開催しICT機器を活用した身体状況や運動データの「見える化」を行い、また、この活動数値を健幸ポイントとし商品券や寄附への付与も可能とすることで、健康に対する意識の醸成とさらなる向上への動機付けなどにつながった。その結果、全国平均、県平均よりも低い介護認定率となり、地域経済への波及効果、医療費の抑制効果につながっている。

本町においても空き施設を有効活用（再活用）したスポーツジム、アンテナショップ及び趣味・娯楽を楽しめるオープンスペース等がある施設を利用しながら、ポイント付与による運動教室の開催を促進し、介護認定率の低下や医療費の抑制ができるよう、健康づくりの推進を図ることが望まれる。

そこで、以下について提言する。

- (1) 高田地域のあやめ荘と保健センターでの健康づくりを図ること。
- (2) 高田体育館や二本柳グラウンドを利用したハードな健康づくりを図ること。
- (3) 宮川河川敷のトリムコースを利用した歩く運動づくりを図ること。
- (4) 新鶴地域の吹上総合運動場や新鶴体育館・テニスコートを活用した交流型のスポーツと健康づくりを図ること。

2. 「移住・定住促進事業（空き家から移住・定住に至るまで）」について

富山県氷見市は、空き家の有効活用や移住・定住を促進するため、物件を探している方に対し、「氷見市空き家情報バンク」を通じてホームページ上で空き家の情報を公開しているほか、売買・賃貸が可能な空き家の情報を随時募集している。また、「氷見市空き家情報バンク」に登録された物件は、移住を希望する方の総合窓口として市が委託している民間の「氷見市IJU応援センター」に情報提供を行い、密接な情報共有のもと連携しながら移住・定住の対策に取り組んでいる。特筆すべきは、移住・定住に関する様々な手厚い補助金制度のほか、空き家を活用した移住体験、移住者による商店街の空き店舗を利用したカフェやランチなどのショップの展開を積極的に支援していることである。移住定住促進事業の目標数字を設定し、移住者目線による嘘のない素直な情報発信に尽きるというスタンスが成功の秘訣と学んだ。

本町においても、空き家を利用した移住・定住の促進については、さらなる移住しやすい環境づくりときめ細かい情報の発信をすることが求められる。

そこで、以下について提言する。

- (1) 動画を活かした情報の発信（行きたくなるような仕掛け作り）を図ること。
- (2) 人が人を呼ぶ情報の発信（移住者の声をホームページで知らせる）を図ること。
- (3) 空き家を活用して、短期間の移住体験ができる施設を早急に確保すること。
- (4) 空き町営住宅を改修して移住者に貸与する制度の構築を図ること。

また、吹上台住宅の未売却区画については、移住定住者の住宅や若者の定住者住宅などに利用を図ること。